

家政経済学科

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程・教育方法】

1年次は、経済学、家政学、経営学、政治学など幅広い社会科学の領域の入門科目群を学びながら、全体を俯瞰しアカデミックな学びの基礎スキルを学修する。

2年次に、より深く経済学・経営学を学ぶ「経済・経営コース」と公共的な視点から生活問題を学ぶ「公共・生活コース」のどちらかを選択し、選択したコースの専門知識を学ぶ科目群が設置されている。経済・経営領域には「経済理論系」「応用・実証系」「経営・地域系」の科目群が設置され、また公共・生活領域には「生活経済系」「生活経営系」「公共系」の科目群が設置されている。特徴的なのは、ゆるやかなコース制となっていることで、どちらのコースを取っても自分のコースの選択必修の科目とともに、自らの関心に応じて他のコースの科目も含めて科目を取れる自由度が高いことである。また、両コースとも外国語で経済・生活を学ぶ科目も用意されている。

3年次には、各領域の発展的な科目をさらに取って学びを深めるとともに、少人数制の演習科目（ゼミ）を全員が取り、調査の実践および仲間との議論で学びを深める。

4年次には、演習科目（ゼミ）で卒業研究に取り組み、学修を総合する。

主な取得可能な科目：中学・高校家庭科、中学社会・高校公民の教員免許

入門科目

1年次に社会科学領域の基礎的な科目を幅広く学び、学科の学びの基礎を築く。一部の科目ではアカデミック・ライティングの基礎を身につけることができる。

経済理論系

経済をミクロとマクロの視点から学び、複雑な経済現象を理解する力を養う。

応用・実証系

入門科目や経済理論系で学んだ知識をもとに現実に生じている様々な問題を分析する力を養う。一部の科目では経済実験を含めたアクティブ・ラーニングを行っている。

経営・地域系

経営戦略論、マーケティング論、経営組織論、会計学、および地域経済論の知識と分析手法を身につける。社会的課題や経済的課題に対して、農村地域での体験学習を通じて考察し

たり、他の系の知識も取り入れながら複眼的に分析しグループ研究を行ったりするアクティブ・ラーニングの科目も含まれる。

生活経済系

生活と経済が関わる領域や社会保障、消費者政策等の領域を学修する。一部の応用的な科目ではグループワークやプレゼンテーションを行っている。

生活経営系

生活の諸問題を、生活の内部条件と外部条件の双方向からとらえ分析する力を養う。一部の応用的な科目ではグループワークなどを行っている。

公共系

政治・行政に関する仕組みやあり方を学び、民主主義の視点を身につける。一部の応用的な科目ではグループディスカッションやインタビュー調査を行っている。

外国語

両コースごとに英語で専門的な学術文献を講読し、思考力や知識を身につける。

演習

1、2年次で学んだことを土台として、少人数制のゼミで学びを深め、卒業論文につなげる。

【学修成果達成のための科目】

DP1 入門科目群

DP2 経済理論系、応用・実証系、経営・地域系、生活経済系、生活経営系、公共系の2年次以上開講科目、統計・調査に関わる科目、外国語系

DP3 経済理論系、応用・実証系、経営・地域系、生活経済系、生活経営系、公共系の2年次以上開講科目

DP4 経済理論系、応用・実証系、経営・地域系、生活経済系、生活経営系、公共系の3年次以上開講科目、連携科目

DP5 演習

DP6 経済理論系、応用・実証系、経営・地域系、生活経済系、生活経営系、公共系の2年次以上開講科目

DP7 経済理論系、応用・実証系、経営・地域系、生活経済系、生活経営系、公共系の3年次以上開講科目、連携科目